

食糧問題とTPP

資源・食糧問題研究所代表

柴^{しば}田^た明^{あき}夫^お

- * 価格が上がっても増える世界の消費
- * 過去最大の消費を繰り返す
- * 安閑としてられない日本の輸入
- * ますます進む「離れる農業」
- * 相矛盾する基本法の三つの目標
- * 農業資源をフル活用に見直すべし
- * 生業としての農業をどうするか
- * 現実的でないコメ300万トン輸入
- * 安倍政権の農業政策のゆくえは
- * 日本の萃点は農業、農村にあり



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
いよいよTPPの交渉に日本が参加しましたが、今日は農業・資源の専門家の柴田さんをお迎えいたしました。柴田さんにはもう何回もお話しさせていただいていますので、ご紹介の必要もないと思います。

交渉参加で農業も開かれたマーケットとなつてきますと、今までのように農協も反対していればいいということではなく、TPP反対派の論者ではない柴田さんにもお呼びがかかるようになったようです。この世界もきちんとマーケットとしてどうしていくのか、産業としてどう育てていくのかが、これから重要になってくると思います。今日は、目下の市況の話もちろんですけれども、将来に向けてのお話も伺える

と思います。それではよろしくお願いいたします。（拍手）

柴田 皆さんこんにちは。資源・食糧問題研究所の柴田と申します。よろしくお願ひいたします。1時間ほどですが、限られた時間の中で、食糧の問題、これが世界でどういう状況にあるのか、併せて日本の農業のあるべき姿について、私の考え方を申し上げてみたいと思います。

初めに、世界の主要国がそれぞれの程度食糧を生産しているのか見てみたいと思います。食糧というのは穀物という意味ですけれども、日本を基準にすると、日本はコメが800万トン、小麦が80万トン、その他入れますと1000万トンぐらいを国内で生産しています。人口、